

(406)

ステンレス生産管理システムの開発

川崎製鉄㈱阪神製造所 ○白石勝紀 和泉康男  
 奥谷史郎 雪井一弥  
 川鉄システム開発㈱ 河中健七

1. 緒言

ステンレス冷延部門の収益性向上と発展を目的に、①販売競争力の強化(納期、品質)②所の体質強化(省力、仕掛削減・歩留原単位の向上)および③技術力の向上を狙いとするステンレスオンライン生産管理システムを開発した。従来システムは、55年6月に稼動したバッチシステム主体の工程管理一貫情報システム(オーダエントリ~出荷)であったが、本システムは、60年1月に稼動したオンラインを主体とする生産管理システムで、大幅な機能アップを企んでいる。

2. システムの概要

- 1) 開発スケジュールとその体制; 56年4月プロジェクト(利用部門5名、システム部門5名)ができ、初設定したマスタースケジュールに沿って開発できた。各フェーズでのマイルストーンチェック、開発ドキュメントの標準化および利用部門の参画と承認等を実施した。
- 2) ハード構成; ビジネスコンピュータは、神戸本社に有り、西宮とは回線で結び、事務所および作業ラインにCRTとプリンターを配置している。(Fig 1)
- 3) ソフト構成; (Fig 2)

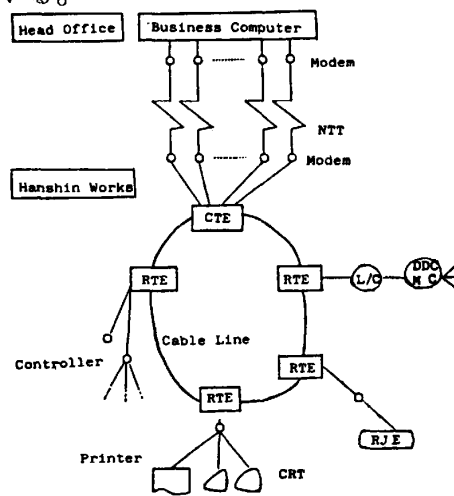


Fig 1 Outline of Hardware

- ①開発範囲 本システムの開発範囲は、オーダエントリ~出荷の工程管理システムと品質管理等の管理情報システムから成る生産管理システムである。
- ②開発規模 計画45万ステップに対し、実績は50万ステップで、ほぼ計画通りであった。
- ③アプリケーション概要

オーダエントリ; 仕様標準化の徹底、対象の拡大  
 素材; 素材発注サポートの改善  
 充当; 標準化による自動充当の採用(面情報反映)  
 計画; シミュレーションによる週間計画の作成  
 命令; 技術標準のマスター化、連続・自動命令組  
 操作; 命令指示情報の充実、地番管理の導入  
 材試; 材試命令タイミングの改善  
 出荷; 現品管理の改善、緊急出荷の対応  
 管理情報; 情報の量・質の改善、EUIの採用

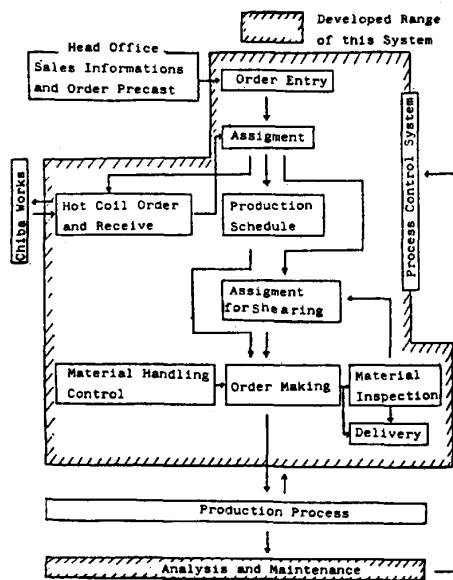


Fig.2 Scope of Production Control System

3. 結言

本システムを開発および利用の観点より、納期・コスト・品質の3点で評価すると、「①納期; スケジュール管理に成功し予定通り稼動 ②コスト; 予算内で開発を完了 ③品質; 稼動前の各種テストにおいて発生したトラブルや改善要求は、稼動前にほぼ対処」であり、その結果当初から順調に稼動し、稼動後間もないが、多大な効果をあげている。